

第 18 回教育課程企画特別部会について

2016 年 7 月 11 日に中央教育審議会教育課程部会の教育課程企画特別部会が開催された。
10:00 から 12:00 まで文部科学省 3F1 特別会議室にて行われた。

一般傍聴者は 70 名程度であった。

今回の議題は以下の通りである。

- (1) 論点整理を踏まえた教育課程の改善・充実について
 - ・ 学校段階等別部会の取りまとめ（案）について
 - ・ 教科等別ワーキンググループの取りまとめ（案）について
 - ・ 審議まとめの構成（案）について
- (2) その他

まず、事務局より資料について説明があった。

資料 1「学習指導要領改訂の方向性（案）」と資料 2-1「総則・評価特別部会、小学校部会、中学校部会、高等学校部会における議論の取りまとめ（案）」は前回にも示された資料であり、簡単に紹介があった。

さらに、資料 3「幼児教育部会における取りまとめ（案）」では、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿として、10 項目（①健康な心と体②自立心③協同性④道徳性・規範意識の芽生え⑤社会生活との関わり⑥思考力の芽生え⑦自然との関わり・生命尊重⑧数量・図形、文字等への関心・感覚⑨言葉による伝え合い⑩豊かな感性と表現）が示された。

資料 4「特別支援教育部会における取りまとめ（案）」では各学校段階別に課題や改善の方向性が示されていることが紹介された。

10:25 頃からは学校段階等別部会の取りまとめ（案）についての意見交換が行われた。

幼児教育において育ってほしい 10 の姿が明確に示されたことを評価する声が多くあった。そして、この内容が小学校の教員の目につきやすいような示し方の工夫をしてほしいとの要望や、この 10 項目を幼稚園から小学校へどう受け取り、伸ばしていくのかを明言すればよいのではとの意見があった。また、幼児教育における 10 の姿と小・中・高における育成すべき資質・能力との関係、および、日常の能力から人間像まで様々なレベルが存在する資質・能力について、その構造を整理する必要があるのではとの意見が出された。学校間の接続について、全体としてまとめた記述があるとよいのではないかとの意見もあった。

10:45 頃から資料 5「各教科等別ワーキンググループの議論の取りまとめについて（案）」

の説明を行い、各ワーキンググループにおける議論の概略が紹介された。そして、これに関する意見交換が行われた。

小学校からのプログラミング教育が大きく取り上げられ、「プログラミング的思考を学ぶ」とされているが、手続き的アルゴリズムという側面の他に、人工知能の学習機能など設計者の意図と異なる動きをする側面があり、誤解を生む場合があると危惧する意見があった。

高校の地歴公民について、地理と歴史の双方が必修化されたことを評価する一方で、日本史と世界史の教員が別々であるために混乱が生じるのではないかと意見があった。

11:30 頃からは資料 6「審議の取りまとめに向けた構成の検討案」が示された。「論点整理」との違いは、これまで項目が別れていた「評価」や「必要な方策」に関する内容を「新しい学習指導要領等が目指す姿」の中に含め、議論によって整理された総則の構造を示すことである。また、各部会やワーキンググループでの取りまとめについては、概要版を中心として書き込まれることとなる。これについての意見交換が行われた。

各教科において例えば「比較」など同様の用語が使われることがあるが、教科特有のやり方・ポイントなどがあるはずで、その違いを子ども自身が自覚し汎用的に選んで使えるようになることが重要であるので、それを整理・統合して審議まとめに入れてほしいとの要望があった。

ワーキンググループでの報告では、他の教科との関連という視点が不足しているので、それについてまとめに書き加えてほしいとの意見もあった。

また、教員の意識改革、教員観についてふれてほしいとの要望もあった。

次回は 8 月 1 日（月）13:00～15:00 に開催し、審議まとめ（案）について議論を行う予定である。